

イスラエル医療支援チームの活動



▲活動終了式典で、イスラエル医療支援チームから仮設診療所の鍵が佐藤仁町長に手渡された。
左から2番目は、施設設置を支援した宮城県栗原市、佐藤勇市長（当時）。（2011（平成23）年4月10日）

町内ではすべての医療機関が壊滅した。

2011（平成23）年3月28日から4月10日までの約2週間、イスラエル医療支援チーム約60名（医師14名、看護師7名、その他技師・通訳・運搬スタッフ等）が活動した。活動終了後、使用した医療機器等が南三陸町に寄贈された。災害時の相互支援協定を結んでいる宮城県栗原市が、速やかにプレハブ診療所、発電機、照明設備、給水、仮設トイレ等の提供・設置を行い、この医療支援活動を支えた。

チームは、プレハブ診療所での診療に加え、避難所を巡回したり、往診での妊婦検診、避難所内で活動していた他の医療関係者の依頼による検査などを行った。

活動最終日の同年4月10日夕方に、活動終了式典が行われた。チームのほか、佐藤勇栗原市長（当時）、佐藤仁町長、在日イスラエル大使館関係者等が出席した。チームの一人一人に折り鶴が贈られ、親しくなった子どもたちも駆けつけて見送った。

この建物は、公立志津川病院に引き継がれ、同年4月中旬から臨時診療所となり、ここで外来診療が始められた。